

ヨミネス しばた

Yominesu Shibata News

議会だより

特集

まちに賑わいを！
中心市街地の現状と今後について考える



「収穫祭～雑煮合戦イベント with 蔵春閣～」でのお菓子撒き

まちに賑わいを！ 中心市街地の現状と今後について考える

新発田市中心市街地では、賑わい創出に向け、行政が中心となった事業を進めてきました。しかし、商店街の空き店舗や旧商業ビル等の老朽化した建物も多く立地しており、今後も引き続き、防災面や都市機能の更新等の課題に向けた取組が求められています。

現在、全国的に官民連携によるまちづくりが進められており、当市においても中心市街地の活性化には、民間の力が不可欠であると考えます。

今回の議会だよりでは、中心市街地活性化の取組や現場取材しました。

商工会議所青年部 後藤 仁義志 会長に聞きました！

商工会議所青年部の第43代会長である後藤さんは、市内「後藤容器」の4代目です。地域で事業をしている若手経営者のため、人と人を繋ぎ、地域を盛り上げる活動を行っています。

Q1.中心市街地活性化について

A1 今までのようにチャレンジショップやイベントをやって盛り上げていきたいですし、雑煮合戦やイベントとの連携で人の流れを作れたら良いと思います。

Q2.市の対策について

A2 商工振興課等は協力的で、観光振興との連携やイベント企画などの継続的支援は助かっています。店舗毎に温度差は様々ありますが、まちなか再生・リフォーム等の事業をやっていただきたいです。

Q3.今後について

A3 起爆剤的な活動ができればいいと思っています。蔵春閣広場でのイベントや札の辻広場での雑煮合戦を核にして、新発田の素材を幅広く使って、人材を育成しながら活性化させたいです。学生や若い人たち、仲間たちと楽しんでイベントができればもっといい街になると思います。



収穫祭～雑煮合戦プレイベント with 蔵春閣～で 参加者にお話を聞きました！



- 市内中心部でのイベントでとても良い。
- アーケードの下でのイベントもあったら良い。
- イベントカレンダーがあると参加しやすい。
- このイベントのために来たので、市内のほかのお店や観光施設に行く予定はありません。
- この時期に雑煮を食べられて嬉しい。1月の本番も楽しみにしている。

様々な思いや課題をくみ取り、いかにして行政が手を貸すのか、予算を出すことだけが解決ではないと改めて感じました。中心市街地活性化には、商業振興だけでなく観光や都市計画が密接であるため縦割り行政の弊害を減らし、中心部のみならず市内全体に関わる課題として考えるべき時に来ていると考えます。

「OLIOLI FLOWER」伊藤 美波さんに聞きました！

市内中央町に出店したヨーロッパの街並みに入ってきたかのような雰囲気のドライフラワーのお店です。「OLIOLI(オリオリ)」とはハワイ語で「幸せ・楽しい」などの意味で、お祝いギフトやインテリアフラワーを手掛けているとのこと。

Q1.商店街に出店したきっかけは

A1 NEOHATT(ネオハット)さんの商店街の空き店舗を見学する企画で紹介していただきました。今後、きっと若い方が商店街に集まって来ることを見据えて出店しました。ほかに、商工会議所に県や市の補助金について相談しました。



Q2.今後の夢や目標は

A2 ウェディングに特化した事業を展開したいと思っています。気軽に新発田で結婚式ができるようなプロデュースを手掛けていきたいです。商店街で今後お店を開きたい、という方から相談を受けることがあります。課題は多いと思いますが、家賃や駐車場問題についてクリアになり若い方の出店が増えるといいなと思います。

「BON'AP」高澤 秋乃さんに聞きました！

フランス語で「お気軽に・召しあがれ・食事を楽しんで」などの意味の「ボナップ」が店名の由来です。市内中央町で焼き菓子やビーガンアイスなどを手作り販売している店主は、神奈川県のレストランでデザート担当をしたのち、ふるさと新発田でさらに実力を発揮しています。



Q1.商店街に出店したきっかけは

A1 店を出したい！と思っていたところ、空き物件が見つかり、市の新規創業支援事業助成金制度を活用して出店しました。店舗の改修には費用がかかるため、事業継続のための助成金制度は助かります。



Q2.今後の夢や目標は

A2 「おいしかった」と言ってもらい、来るたびに楽しんでもらえるお店にしたいです。まちなかがもっと賑わうといいですね。札の辻広場の活用や、石川小路マルシェや寺びらきなど歩いて行ける範囲のイベントの定期的な開催があるといいと思います。SNSの効果を実感しているので、イベントのPRには活用できると思います。

女性が『出店』という夢をかなえながら中心市街地の今後のあるべき姿や、可能性について考える熱い思いにふれ、改めてまちの賑わい創出には、若い力と行動力、そしてSNS等による発信力が重要であると認識しました。

行政・議会はもちろん、多くの柔軟な意見交換のなかで、新たな発想の転換が必要であると考えます。

一般社団法人NEOHATT(ネオハット) 関川 良平 代表理事に聞きました！

ネオハットは、まちなか(主に商店街)を盛り上げようと、商店街店主等の有志が集まって活動していたメンバーで立ち上げた法人。商店街での開業相談、空き店舗の情報提供、イベント企画等、中心市街地の活性化に向けた活動をしています。

Q1.法人設立の背景は

A1 高齢化と少子化が進むことで、人口も店舗数も購買力も落ちており、中心市街地の活力やまちの魅力が低下してきていると思い、元気で活力のあるまちを未来を担う子どもたちに引き継いでいきたいという想いから、ネオハットを設立しました。



ネオハット代表理事：関川良平さん

Q3.活動していて困っていることは

A3 空き店舗での出店を検討している方々からの相談を多く受けてきましたが、改修費用や家賃等、様々な理由から、なかなか出店にまでたどり着けないことがあります。行政からの新規出店支援もありますが、多くの出店につながらないのが現状です。

Q2.これまでの活動実績は

A2 商店街での出店相談や空き店舗の紹介を行い、これまでに数店舗出店することができました。ハンバーガーフェスティバル等のイベントを企画したり、サマーフェスティバル等、様々なイベントを共催で開催したりしてきました。



ハンバーガーフェスティバル

Q4.今後の展望は

A4 これまで、商工会議所や行政とも連携して中心市街地活性化に向けて活動してきました。まちづくりは私たちだけでなく、行政だけでもできないと思います。今後も、行政と連携して元気なまちを創っていきたいです。



新規出店に至った OLIOLI FLOWER

若手経営者たちが中心になり中心市街地活性化に向けてアイデアを出し合って活動している熱意が伝わってきました。今後の活動に期待するとともに、議会としても中心市街地活性化に関わる事業を今後も支援していきたいです。

新発田市新規創業支援事業助成金制度

市内において新規に創業する方へ、事業の継続に係る経費を助成します。(3年間)
対象経費は、事業の継続に係る経費(賃貸借料、水道光熱費、機器リース料、広告宣伝費等)です。
※しばた創業塾を受講するなど、特定創業支援証明書の交付を受けた方が対象。

● 事業実施区域が中心市街地の商業地域のうちメインストリートに面する1階の店舗

事業内容：空き家店舗等へ出店し、新規事業を営むこと

- 要件：1. 開店(業)後3年以上当該出店店舗で営業を継続しようとするものであること
2. 従業員が当該出店店舗に常駐し、業務を行うものと市長が認めるものであること
3. 店舗において業務を行う日が週5日以上であること
4. 店舗において業務を行う時間が午前9時から午後6時までの間において4時間以上であること

助成限度額：50万円/年

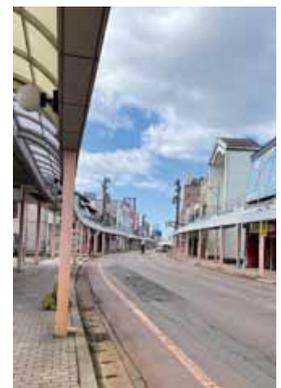
● 事業実施区域が上記以外の区域

事業内容：新規事業を営むこと

- 要件：開店(業)後3年以上当該出店店舗で営業を継続しようとするものであること

助成限度額：25万円/年

上記助成金以外にも、創業の段階に応じた支援メニューを用意しています。
皆さまの状況に応じた支援メニューをご紹介します、創業の実現までバックアップしていきます。
※詳しくは、商工振興課へお問い合わせください(TEL 28-9650)



経済建設常任委員会視察報告

上越市高田地区の中心市街地活性化

令和5年8月21日(月)・22日(火)の両日、経済建設常任委員会では行政視察に行っていました。1日目には、上越市高田地区の中心市街地(商店街)の活性化について、2日目は、富山市の市委託の植物工場について、それぞれの取組について視察しました。

ここでは、特集の中心市街地活性化について報告いたします。

視察会場となった「町屋交流館高田小町」は、明治時代に建築された町屋を再生・活用した施設で、ノスタルジックな雰囲気から商店街の意気込みが垣間見えました。

高田地区は、2つの核となる拠点施設周辺の活性化を図り、その間の通りをモールに見立てて活性化の軸として賑わい創出に取り組んでいます。

商店街の若手メンバーと地元大学生が連携し、若年層の意見を積極的に取り入れて「高田本町よるまるしえ」のイベントを企画・開催。雪国ならではの冬の課題も楽しく解決しようと、ウィンターマーケットと乗合タクシーの実証実験を行い、夕方以降の商店街の賑わいを取り戻す取組を実施しています。



少子高齢化・空き家・空き店舗・空洞化・公共交通・合併後の広い面積等の課題、海と山に囲まれた恵まれた立地、と上越市と新発田市の共通点は多いと感じました。同じ時代を生きる人と人が知恵を出しあい、この難しい課題に挑んでいかなければなりません。インターネットやSNS等で情報が瞬時に流布する時代で、いま何をすべきかを議論することが大事だと考えます。

議会の取組

議会では、中心市街地活性化のため、代表質問、一般質問、委員会質疑などで必要な提案を行ってきました。

中心市街地活性化に関連した議会の取組(平成25年6月～)

一般質問 29回
代表質問 5回
予算審査 1回
特別委員会

中心市街地に残る店舗の未来に向けてできること
大倉喜八郎別邸蔵春閣の附帯設備、利活用、門前町構想について
市役所「札の辻広場」の活用に関して更なる活用を目指してはどうか
商店等リフォーム助成について
中心市街地活性化策と日々の住民の生活を支える店舗誘致について
中心市街地における買い物弱者と公共交通の在り方について
新庁舎(ヨリネスしばた)の活用による中心市街地活性化の方向性について
新発田ブランド認証制度と中心市街地活性化策の具体的な施策について
新発田市商店街の活性化について
活気ある街づくり(交流人口増)について
新発田市の観光施策「ひとのながれ」について



1月14日の雑煮合戦

市議会では、これまでも産業振興や中心市街地活性化に関する議案を審議してきました。市民の皆様を惹きつけるマグネットとなるようなお店をコーディネートし、そして、長く続けていただける店舗が増えるよう、商店街や各種団体と行政がみんなで活性化を進めていく必要があると感じました。市の助成金など、もっと出店者に寄り添い支えていけるようサポート体制を整えることも重要だと考えます。先日行われた雑煮合戦には子どもたちや若い人達がたくさん出て来ていました。需要は間違いなく多くあります。議会も、もっと先進地の情報を取得しながら諦めずに取り組んでいきます。

11月臨時会

「議員定数及び議員報酬に関する特別委員会」が設置されました

【委員長】五十嵐良一

【副委員長】長島 徹

湯浅佐太郎 板倉 久徳 宮野 清隆
 高橋 茂 小柳はじめ 広岡けんじろう
 加藤 和雄 宮村 幸男 三母 高志
 渡邊 喜夫



の12名が選出され、今後の新発田市議会における議員定数や議員報酬に関して検討していきます。



主な議案等に対する賛否の一覧

詳細およびここに記載以外の議案は
市議会ホームページをご覧ください。

12月定例会

12月定例会	議第71号	新発田市まちづくり総合計画基本構想の策定について	賛成多数
	議第79号	令和5年度新発田市一般会計補正予算第8号	賛成多数
	議第85号	令和5年度新発田市一般会計補正予算第7号	賛成多数
	議第86号	新発田市会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例制定について	賛成多数
	議第87号	新発田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について	賛成多数
	議第88号	令和5年度新発田市一般会計補正予算第9号	賛成多数
	議会第10号	ガザ地区における平和の実現を早期に求める決議	全員賛成

主なものをご報告します。

12月定例会

新発田市まちづくり総合計画基本構想を策定します

令和6年度～令和13年度の基本構想で、市民に分かりやすい表現に見直し、デジタル化やSDGsなど時代の潮流を取り入れた内容としています。

<総務常任委員会での質疑>

Q 今後のスケジュールは。

A 本定例会の議決の後、審議会での意見等を策定部会へフィードバックして策定を進める。総合計画として関係機関に3月末配布となる予定。

コミュニティセンターの光熱費の高騰等に対し支援します

●コミュニティセンター管理運営事業

<総務常任委員会>

電気・ガス料金の高騰及び最低賃金の引上げに伴う10施設の指定管理者に対する運営支援に要する経費を補正します。

住民税非課税世帯への物価高騰の緊急支援として1世帯あたり7万円を支給します

●物価高騰対策支援給付金事業

<社会文教常任委員会での質疑>

Q 前回の非課税世帯への3万円支給の際は、住民税均等割のみ課税世帯にも2万円を支給した。今回の対象世帯は。

A 今回は国の制度設計に基づく給付金で、約8,000世帯の非課税世帯が対象。

第3子以降の出産費用を引き続き助成します

●第3子以降出産費助成事業

第3子以降の出産費用が当初見込みを上回ることに伴い予算を補正します。

<社会文教常任委員会での質疑>

Q 想定より出産数が増えたことが要因か。

A 出産数の見込みについては、大きく変わっていない。自由診療である医療機関の出産費用の金額が上がったことが主な要因である。



中心市街地エリア空き店舗利活用推進事業の予算を減額します

●中心市街地エリア空き店舗利活用推進事業

<経済建設常任委員会での質疑>

Q 予算が減額となる理由は。

A 国の社会資本整備総合交付金を活用した、空き店舗4店程度の改修を当初想定していたが、まちづくり団体の活用方針がまとまらず、交付金の活用に至らなかったことが主な要因である。

街なみ環境整備事業の予算を増額します

●街なみ環境整備事業

<経済建設常任委員会>

中心市街地エリア空き店舗利活用推進事業に係る経費が不要となったことに伴う国の社会資本整備総合交付金の有効活用を図るため、新発田川の護岸整備等(水のみち地区)に要する予算に組み替えます。

今後の生活 どう変わる？どうなるの？

一般質問とは？

私たちの暮らしに関係する身近で大切な問題について、議員が市長や教育長に直接聞いたり、提案をします。

一般質問の内容の一部概要をご紹介します。

一般質問の内容を動画で視聴できます。市議会ホームページの「議会中継」から「本会議録画配信」を検索するか、スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み取りご覧ください。



Q1 鳥獣害対策のため専門課創設等の対策を

▶ 阿部 聡 議員



- Q 餌の豊凶サイクルから、現在のざっくりした計画でなく、中長期的な計画が必要ではないか。
- A 個体数調査も必要だ。クマの生息状況などの情報が不足しているので難しい。
- Q 生息個体数の正確な把握は必要ない。人に害を及ぼす「危険個体」の駆除・防護が必要ではないか。

- A 現行計画では農業被害軽減を主な目的としていた。今後は人身被害を防止する対策を講じていきたい。
- Q 人事異動のない鳥獣害専門官、対策課など専門部署の設置が必要ではないか。
- A 外部からの登用を含め、現時点では考えていない。



Q1 当市のLGBTQへの理解及び対応について

▶ 長島 徹 議員



- Q 性の多様性等に係る県民意識調査の結果を踏まえ市長の見解は。
- A パートナーシップ制度導入等や性的マイノリティの方への理解が進んでいるものと認識している。
- Q 市民の皆様性に性的マイノリティへの理解を深めてもらうための啓発活動の取組は。
- A 正しく理解していただくため、広報や講演会研修会等を通じて啓発活動をしている。

- Q 自分の性に違和感のある児童生徒に対する偏見・差別・いじめを重大な人権問題と捉え、小・中学校での啓発活動の取組は。
- A 自他の違いを理解し尊重しあうことの大切さを感じ考えさせる授業を実践している。





Q1 障がい者との共生社会について

● 高橋 茂 議員



- Q 「ヘルプカード」とガイドブック「福祉にタッチ」の周知について。
- A 「ヘルプカード」の更なる利用拡大と理解促進を図りたい。「福祉にタッチ」については、更なる周知と一層の普及を図りたい。
- Q 2020東京大会時、市は共生社会の実現を開催コンセプトとして採火式を表現した。2025年のデフリンピック東京大会でも聴覚障がい者など、障がい者の理解を深める為、活用できないか。

- A 2020東京大会時は、良い発信ができたと思う。2025デフリンピック東京大会に向け、これから研究をしていきたい。



Q1 教職員の長時間・過密労働の解消に向けて

Q2 自転車のヘルメット着用に一押しを

● 高橋 芳子 議員



- Q 欠員の補充はできたか。
- A 欠員は6校8人で補充の解消に至らない。
- Q 時間外勤務が月80時間を超える教職員の割合は。
- A 県平均より下回っているが、9.4%ある。
- Q 部活動の地域移行の進捗状況は。
- A R 7年度までに移行。8年度から中学校で休日を行わない。6年度から地域クラブを設置。

- Q 長期休職者数(精神疾患含む)は。
- A 市内小・中学校で9人。
- Q ヘルメットの購入費補助を他市町村で実施しているか。着用率ワースト1位の新潟県に働きかけを。
- A 県内7市町村で中学生対象に実施。補助制度創設を含め県に要望していく。



Q1 インフルエンザ予防接種の経費助成について

Q2 住宅地の旧農業用排水路整備について

● 中村 こう 議員



- Q 令和2年の質問を受けて実施した助成の中学生以下の総額は。
- A 把握可能数は12歳以下しかなく10,948名で1,747万円。
- Q 15の春を泣かせないために中学3年生783名に3千円、計約250万円を助成できないか。
- A 市としては考えていない。
- Q 空き家や協力不可能な家庭など補助制度を活用するには難しい現状なので、市ですべて施工できないか。

- A 排水路については、通水機能に支障がある場合は市で修繕等対応し、日常の管理は当該地域の方にお願ひしてきた。U字溝等の整備は地域合意の上、補助制度を利用してほしい。



住吉町地内の水路



Q1 空家等の対策の推進について
Q2 クマ被害対策について

● 若月 学 議員



- Q** 「空家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律」が施行されるが、当市の空き家はどのように推移するか。
- A** 人口減少に対して世帯数が増加しており、空き家は増加していくと想定される。権限強化として指導と勧告できることになる。
- Q** 保護動物である「クマ」と共生するには。
- A** 実態を解明し「棲み分け」を見据え地域活動(刈払い、緩衝帯整備)を支援する。

- Q** 川東地区鳥獣害防止対策協議会を見習い共助の組織を各地で立ち上げられないか。
- A** 川東地区を優良事例として、各地区での設立に向け支援していく。



Q1 給水スポットの設置について
Q2 農業振興の課題について

● 渡邊 喜夫 議員



- Q** ゼロカーボンシティに向けマイボトル利用推進に公共施設等へ給水スポット設置は。
- A** マイボトル普及はプラごみ削減に有効。給水機入替の際はマイボトルへ給水しやすいものを導入したい。
- Q** 高温障害に農畜産物の販売収入減少と資材費高騰のWパンチ。農家は窮状に瀕している。支援策は。

- A** 物価高騰対策の補正予算を活用し必要な支援を速やかに実施したい。
- Q** 水田2割に園芸は圃場整備事業の採択要件。大区画に野菜等の作付けに悩む地域が多い。
- A** 米への依存度が高くハードルが高い。農業生産の効率化や多様化を進め課題克服に支援したい。



猛暑を受けたR5年米



Q1 ゼロゼロ融資返済への市の支援体制について

● 宮野 清隆 議員



- Q** ゼロゼロ融資の返済が本格化するなか、経営が圧迫されている事業主に対し、市として金銭的支援を今一度検討する余地は無いか。
- A** 融資返済の直接的支援は国に対して要望する。市としては金融機関や新発田商工会議所と連携し中小企業の事業再生を後押しする。
- Q** 今・得キャンペーン等は事業主にとっては一過性の支援策に過ぎない。より継続的に支援できる需要喚起策が必要と考えるがどうか。

- A** 企業のDX化を支援し体質改善を促す。また国の重点支援地方交付金を活用し、ニーズに応じた支援策を検討するよう担当課に指示した。





Q1 「共生社会」の実現。認知症対策について
Q2 空き家の有効活用とワンストップ窓口開設を

◎ 石山 洋子 議員



- Q 共生社会に向けた認知症高齢者についての具体的な取組は。
- A 共生社会の推進に繋がる地域包括ケアシステムの構築を進めている。
- Q 認知症サポーターが活躍するために再度の養成講座が重要。受講のしくみづくりを。
- A 2度、3度の受講は大事であり、受講できるしくみを指示する。
- Q 市街地で居住以外の用途に活用しやすい有効活用を進めるべきでは。

- A 連携協定を締結している各種団体等と連携し相談体制を整えている。
- Q ワンストップ相談窓口の開設を進めるべきでは。
- A 相談・苦情への対処法等、各支所、関係課と建築課が連携し対応する。



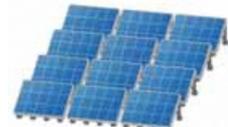
Q1 持続可能な学校のための対策について
Q2 市の地球温暖化対策の実効性を高めるために

◎ 三母 高志 議員



- Q 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法が教育現場に生じさせる課題認識と対策は。
- A 給特法制定時と現在の勤務実態は大きく異なる。教員の労働に合うよう国・県に改善を求める。
- Q 市民や事業者に実行計画を認知してもらうためにどのように対策をすすめるのか。

- A 広報しばた等情報発信や、子どもたちの学習機会を通じ普及・啓発に努める。
- Q 再生可能エネルギーの発電電力量の計画達成に向けた具体的な取組について。
- A オール新発田で取組を加速し新発田市脱炭素社会推進パートナーシップ会議(仮称)設立を目指す。



Q1 新発田市オープンデータについて
Q2 介護予防ポイント制度について

◎ 広岡 けんじろう 議員



- Q プログラム利用の利便性を高める為、csv形式による公開は可能か。
- A 利用者が活用しやすいcsv等の形式での公開について検討するよう担当課へ指示した。
- Q オープンデータの公開範囲を拡大できないか。
- A 担当課で研究し、可能な限りの情報をオープンデータとして公開するよう取り組む。
- Q 元気アップサポーターポイントで交換できる商品が舌ブラシのみだが、商品拡充の考えはあるか。

- A 令和6年度に向けて商品拡充の準備を進めている。
- Q ポイント付与の取組の拡大はあるか。
- A 他市町村の事例を参考に、調査研究していく。





Q1 空き家対策の現状と展望



● 宮本佳太議員

- Q 空き家の現状は。
- A 令和4年度1,235戸：昨対比+約150戸。
- Q 空き家化予防対策として、所有者等への啓発を強化できないか。
- A 遠方在住所有者への直接訪問等の当事者意識醸成、宅建業協会等連携強化による協力体制を継続。
- Q 空き家バンク活用、リノベーション等再生支援の具体的実績はあるか。

- A 空き家バンクは実績評判共に良好。再生支援は実績なく、住宅からの用途変更を伴う活用促進が課題。
- Q R5年12月施行の改正空家特措法を受け、管理不全空家指定や住宅用地特例措置解除等、行政として強化する取組はあるか。
- A 慎重に検討していく。



Q1 学校給食のオーガニック化について



Q2 学校給食の完全米飯化について

● 惣山かすみ議員

- Q 「食とみどりの新発田っ子プラン」や「オーガニックSHIBATAプロジェクト」等の取組があるが、学校給食への有機食材の使用率は。
- A JAS認証の有機食材の使用は無。新発田産コシヒカリと可能な限り地場産食材を使用。
- Q 有機食材を使用しない理由は。
- A 毎日8,000食分の安定した流通と安価な調達課題。

- Q 米の需要は減少傾向にあり、小麦は価格変動や安定的調達への不安がある。完全米飯化してはどうか。
- A 多種多様な献立が食育につながる。学校給食法等に照らしても週4回の米飯給食は妥当であり、完全米飯化は考えていない。



Q1 災害級の干ばつ被害支援は農業の生命線だ



Q2 物価高騰などから中小零細業者の支援を

● 宮村幸男議員

- Q 猛暑と少雨で災害級の被害で収量減と低品質、物価高の三重苦に稲作や園芸野菜、畜産が陥っている。支援を実施すべきだ。
- A 直接的な収入減の支援は考えないが、国の補正予算を活用し、必要な支援を速やかに実施したい。畜産も飼料高であり同様に対応する。
- Q 物価やエネルギーの高騰で業者が経営苦にあえいでいる。廃業等に追い込まれない支援が必要だ。思い切った対策を考えてはどうか。

- A 国の重点支援地方交付金を活かし、支援対策について具体的に検討するよう担当課に指示した。

※他に熊対策や猟友会支援について質問した。





Q1 過疎地域持続的発展特別事業について



● 小坂 博司 議員

- Q 令和4年12月「新発田市過疎地域持続的発展計画」の作成により新たに交付税措置される有利な財源としての「過疎債」が利用できる。地域の切なる願いである「加治川地域要望」の前進で生活環境の改善を望む。
- A 生活環境の整備について過疎債を有効に活用し実施する。現在、加治川有機資源センターの改修や、大峰保育園の建て替えなどを計画している。事業完了後に優先度を判

断しながら計画的に実施していく。



建替予定の大峰保育園



**Q1 子どもの均等割なくし、国保税の引き下げを
Q2 パートナーシップ制度の創設について**



● 加藤 和雄 議員

- Q 子どもの均等割をなくすべき。
- A 未就学児の均等割額を減免する市独自の支援を検討している。
- Q 滞納すると、短期証や窓口で10割負担が必要な資格証が発行される。短期証は167世帯・資格証は14世帯だ。資格証等は中止し、正規の保険証発行を。
- A 負担の公平性から、やむを得ず発行している。中止は考えていないが相談者に応じたきめ細かい対応に努める。

- Q LGBTQの方の同性婚やパートナーシップ制度に対する認識と制度の創設は。
- A 多様な性の在り方への理解と認識が広がるよう啓発が重要。制度の導入について研究を進める。



**Q1 災害級酷暑に対し独自の農業支援を強化せよ
Q2 博物館整備はいつまで引き延ばすつもりか**



● 小柳はじめ 議員

- Q 水稻の収量・等級低下が同時発生したが財調純増の2億円で市独自の激励金を支給すべきだ。
- A 当市は比較的被害が少なく他産業とのバランスもあり直接支給をせず国の補正予算を活用し必要な支援を実施したい。
- Q 当選回数が少ない首長の自治体は直接支援を早々に決めているが4期目の市長は実行力が鈍ってきている。
- A 私の政治姿勢は変わらない。

- Q 特養二の丸移転に続き基本構想にある博物館整備の具体策は変更無いか。
- A 市道付け替えと土橋門整備を行い並行して5億円を目途に資料館として整備する基金を積み増しする。



第3回歴史文化講演会

議会報告会とWeb議会報告会を開催しました

11月18日、25日に5会場で計6回、議会報告会を開催し、12月1日には午後7時から動画投稿サイト「YouTube（ユーチューブ）」を利用してWeb議会報告会をライブ配信しました。

報告会では、令和4年度一般会計決算関係を中心に9月定例会で審議された内容を説明しました。今回は、議員定数及び議員報酬についてもテーマに加え、皆さんと活発な意見交換を行うことができました。

いただいたご意見等は、今後の議会活動に反映させていきたいと考えています。

当日参加者数 (人)

11月18日	午前	本庁舎	10
	午後	菅谷コミュニティセンター	4
11月25日	午前	豊浦地区公民館	6
		本庁舎	10
	午後	五十公野コミュニティセンター 東豊コミュニティ防災センター	3 15
12月1日	Web 議会報告会		※33

※当日の視聴者数は33名でしたが、1月以降、視聴回数は100回を超えています。

会場での主な質疑応答

- Q 獣害、特にクマの被害が多く来年も続くと思われる。農林水産業の予算を増やすなどの獣害対策を。
- A 同感である。喫緊の課題として行政側に伝える。
- Q 健全な財政状態維持の対策は。
- A 歳入の多くを占める固定資産税を増やすための産業振興が必要だと考える。



参加者からの主な意見等

- 農林水産業に力を入れてほしい。
- 地域安全の担い手である消防団の将来的な持続性についてどう考えるか。
- ふるさと納税について、新発田の魅力を活かす工夫が必要だ。
- 【議員定数及び議員報酬について】
- 議員報酬は、民間会社と比較して低いので上げるべきだが、市の財政状況を鑑みて定数を削減すべき。
- 新発田市は広いので、議員定数はこのままで良い。
- 地区別に議員を選出する方法はどうか。



Web議会報告会

ライブ配信することで若い方にも議会に興味をもっていただき、リアルタイムの意見交換がしたい、という思いで令和2年度に試行的にスタートしてから今回で6回目。今回、たくさんの方にご視聴をいただき、決算や行政視察のテーマと成果についてのご質問や議員定数及び議員報酬に関するご意見のコメントをいただきました。

ご自宅等で気軽に視聴できるWeb議会報告会の配信を今後も続けていきたいと考えています。

今回のWeb議会報告会については、右の二次元コードを読み取ることで視聴することができます。



議員定数及び議員報酬に関する特別委員会を開催しました

11月臨時会で設置された「議員定数及び議員報酬に関する特別委員会」が12月1日、12月22日に開催され、本格的に始動しています。

議員定数については、下記の12の論点を基に検討を深めていきます。

これからも市民の皆様のご意見等にも耳を傾け、より良い新発田市議会のあり方を検討していきたいと考えています。



議員定数の論点について

他市等比較	1	新発田市と同じくらいの面積の市の議員定数を調べ、新発田市の議員定数を考える
	2	新発田市の人口に基づき、議員定数を考える
	3	新発田市の財政状況により、議員定数を考える
	4	近隣自治体・類似団体の状況：阿賀野市・村上市・三条市・柏崎市等
若い人や女性等の進出	5	若い議員や女性議員等の進出：若者や女性、障がい者等の議会進出が難しいと言われることがあるが、実際はどうか考える
	6	地域の状況：旧新発田市と旧町村、小・中学校区等による地域格差が見受けられるという意見があるなか、議員定数について考える
市民の声の反映	7	市民からの意見を聞き、検討する
議員の仕事	8	常任委員会等の在り方（委員会数や委員数）：合理的な審査ができる委員会数と委員数を考える
	9	民意の市政への反映：民意を把握し市政に反映するために必要な議員定数を考える
	10	政策立案、監視機能：政策実現や行政のチェック機能を強化するために適当な議員定数を考える
	11	議会活動への関心：議員活動に対する市民の興味・関心を高めることで市政への参加を促し、投票率や立候補者の増加につなげるために適当な議員定数を考える
	12	めざす議会像：これからの議会に期待される役割を議会改革の先進地等を参考に考え、それに応えるために必要な議員定数を検討する

東小学校で議長が講話を行い交流しました

東小学校6学年の総合的な学習では、「ふるさとを愛する心」の育成を目指し、新発田市の歴史・文化・暮らしに関する見聞を深める様々な取組を進めています。その一環で、9月22日、議長が同校で新発田市の現状と課題についての講話を行い、市のボトルドウォーター「源泉滾々」を紹介しました。人口減少問題や市債などの課題があることを聞いた子どもたちからは、「市には借金があるの?」という驚きの声が多く上がっていました。また、議長が都会で暮らして新発田の美味しい水と空気、人の温かさを痛切に実感した体験談に「新発田の水道水はペットボトルの商品になる価値がある美味しい水なんだ」と魅力を再発見している様子でした。そのほか、駅前活性化や映画館誘致などについて意見交換しました。

10月17日には、市内各所を見学した際、議場見学を行いました。「まちなかに市役所があるのは、みんなが行きやすくていいな」「歩けば歩くほど、新発田の良さやお店や施設のことが分かり楽しい」などの感想をいただきました。



研修・視察の報告



須坂市議会行政視察に対応しました

10月27日、長野県須坂市議会広報特別委員会が当市議会だよりについて行政視察のため来訪しました。

当市議会の広報広聴委員会から委員長と副委員長が対応し、市議会だよりリニューアルの経緯や、編集について工夫している点について説明しました。

市民の方に手にとって読んでいただける広報誌をお互いに目指し、活発に意見交換ができました。



総務常任委員会

NPO法人との協定による移住・定住の促進について 10月31日 千葉県木更津市



自主防災組織による地域防災力の強化について 11月1日 東京都葛飾区



議会運営委員会

議会改革について 11月6日 埼玉県所沢市



11月7日 茨城県取手市



11月8日 神奈川県横須賀市



広報広聴委員会

議会だより編集について 11月13日 埼玉県戸田市



11月14日 埼玉県さいたま市



経済建設常任委員会

所管事務調査

11月15日 キネス天王、蔵春閣



経済建設常任委員会 意見交換会

12月18日、新発田市農業士会のメンバーの方と経済建設常任委員会委員が意見交換会を行い、若手農業後継者の会である新発田市農業士会の皆さんが直面する現状と課題やこれからの農業設計について意見を交わしました。

経営コストの値上がりと価格転嫁の状況について

- ・肥料代は1.5～2倍、設備投資や人件費等も軒並み高騰しているが、価格転嫁は1割程度なので利益直撃。

水稻酪農それぞれ、オーガニック米等や新発田牛等のブランド化の必要性や支援について

- ・食料安全保障の観点からも生産性向上が最も肝要。地域特性に応じた対応が必要。
- ・オーガニック米は手間がかかるため、本気なのか懐疑的。ニーズ調査が必要なのではないか。
- ・末端消費者を意識するとブランド化はある程度必要。補助や指導など完全バックアップがなければ実現の可能性は乏しい。

行政への要望について

- ・農業政策において、支援の偏りを感じる。未来を見据えた農業支援を。
- ・若い農業者への支援拡大を。



赤穂義士の法被姿で本会議に臨みました



赤穂義士四十七士の一人で、当市出身の堀部安兵衛の生誕地を広く市内外に発信しようと、赤穂義士が討ち入りを果たした12月14日を前にして、市議会定例会初日の12月7日に、赤穂義士の法被を着用して本会議に臨みました。

10回目となる今年は、赤穂の牡蠣の試食もあり「しばたオイスターバー」を盛り上げました。当日は、テレビ局や新聞社から取材を受けました。

今後、市議会として、新発田市を積極的にPRし、盛り上げていきたいと考えています。



議会からのお知らせ

2月定例会日程予定

日	月	火	水	木	金	土
2/18	19	20	21	22	23	24
	告示日 議会運営 委員会			議会運営 委員会	天皇誕生日	
25	26	27	28	29	3/1	2
		本会議 (提案理由説明) 予算審査委員会 (財務課長説明)		本会議 (一般質問)	本会議 (一般質問)	
3	4	5	6	7	8	9
		本会議 (一般質問) 議会運営 委員会	常任委員会 (総務)	常任委員会 (社会文教)	常任委員会 (経済建設)	
10	11	12	13	14	15	16
	議会運営 委員会		本会議 (補正予算等採 決・会派代表 質問)	予算審査委員会 (第3セクター)	予算審査委員会 (総務関係)	
17	18	19	20	21	22	23
	予算審査委員会 (社会文教関係)	予算審査委員会 (経済建設関係)	春分の日	予算審査 委員会 (市長総括質疑)		
24	25	26	27	28	29	30
	議会運営 委員会	本会議 (一般会計 新年度予算 議案等採決)				

※請願・陳情の提出期限は2月20日です。
 ※変更等の場合は、ホームページ・エフエムしばた等でお知らせします。
 ※一般質問2日目及び3日目は、一般質問の通告議員が多い場合に行います。

本会議を生中継しています

本会議（定例会のみ）の開始（午前10時）から終了まで中継しています。

① FM放送

エフエムしばた（76.9MHz）で生放送します。



② インターネットサイマルラジオ

右の二次元コードまたは、エフエムしばたのホームページのバナーから聴くことができます。



③ インターネット生中継

市議会ホームページで生中継します。

下の二次元コードまたは「新発田市議会」で検索し、「本日の議会中継」からご覧ください。



市議会ホームページはこちらから

新発田市議会



<https://www.shibata-shigikai.jp/>

傍聴者の声 本会議の傍聴者からいただいたご感想を紹介します

- ・県議会を傍聴した際、議員席の配置図と行政側の配置図もいただきました。新発田市では名札が立っていますが、傍聴席からは見えず、出席している課長等の担当課が分からないので、配置図配布を検討いただければと思います。
- ・脱炭素社会の実現に向けて、ぜひ取組をお願いします。



みなさんも傍聴にお越しください！

編集後記

令和6年元日に発生した能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今年はどうなるのか計り知れないスタートとなりました。我々議員は冷静に市民の安心と安全の為に、防災と減災に尽力してまいります。この「ヨミネスしばた」もその為にあります。議会は新たに「議員定数

及び議員報酬に関する特別委員会」を設置いたしました。今年から本格的・具体的な議論に入ります。議会は市民の皆様の意見を市政に反映させるためにありますので、皆様からの声に真摯に真剣に耳を傾けてまいります。これからも新発田の発展と子どもたちの未来の為のご意見をお待ちしておりますので何卒宜しくお願いいたします。

（文責 湯浅佐太郎）



おかげさまで第150号！

新発田市議会だよりは、昭和61年10月22日に創刊し今号で150号となりました。これからも、市議会の活動状況や議論の内容を皆様にお知らせしていきます。

【広報広聴委員会】委員長／石山洋子
 委員／板倉久徳・湯浅佐太郎・広岡けんじろう・高橋芳子・長島徹

令和6年2月15日発行 ©発行・編集／新発田市議会 広報広聴委員会
 〒957-8686 新発田市中央町3丁目3-3 新発田市議会事務局
 ©TEL 0254-28-9400 URL：<https://www.shibata-shigikai.jp/>

